

2008年3月（第84回）景気定点観測アンケート調査結果

調査期間：2008年2月19日～2月29日

調査対象：2007年度(社)経済同友会幹事、経済情勢・政策委員会委員、その他委員会登録の
経営トップマネジメント(527名)および各地経済同友会代表幹事(83名)

計610名

集計回答数：208名(回答率=34.1%)〔製造業76名、非製造業132名〕

〔(社)経済同友会会員155名、各地経済同友会代表幹事53名〕

* 本調査は年4回(3月、6月、9月、12月)実施

【調査結果の概要】

・景気判断

(1)景気の現状について

「緩やかに拡大している」(20.3%)が前回比33ポイント減と大きく減少した一方、「緩やかに後退している」(26.1%)と「横ばい状態が続いている」(50.7%)が大きく増加した。「緩やかに後退している」「後退している」の合計は28.5%と、2003年6月調査(36%)以来の水準に。

(2)今後の見通しについて

「横ばい」(49.8%)との回答が最も多く、「緩やかに後退」(31.4%)が続いた。
「緩やかに後退」が「緩やかに拡大」を上回ったのは2003年6月調査以来4年9ヵ月ぶり。理由としては、「設備投資の好調」が減り、「企業収益の減速」や「個人消費の低迷」が前回に続き大きく増加した。

・企業業績、設備投資等

(1)売上高および経常利益

1 - 3月期につき、製造・非製造業とも減益見通しが大きく増加した。

(2)設備投資(2008年度計画)

製造・非製造業ともに増額見通しが大きく減少し、減額見通し、あるいは07年度並との回答が増加した。

・トピックス

景気拡大の終息時期

「すでに終わった」が32.7%と最も多く、「2008年前半まで」(28.8%)、「2008年中」(21.2%)が続いた。

デカップリングについて

米国経済と世界経済の減速との連動性は、「引き続き連動性は高い」が57.5%と最も多く、「連動性は弱まっている」は30.4%だった。

景気のリスク要因(輸出以外)

輸出の減速を除く景気のリスク要因としては、「資源・エネルギー価格の上昇」が最も多く、「個人消費の低迷」「株価の下落」がこれに続いた。

成長率・CPIの見通し

日本経済の成長見通しについては、12月調査時に比べ、中央値が2007年度は0.1ポイント、08年度は0.5ポイント低下した。平均値はそれぞれ1.70%、1.51%となった。また、消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)の見通しは、中央値が2007年度0.3%、08年度0.5%、平均値は07年度0.37%、08年度0.58%となった。

賃金が上昇しない理由

賃金が上昇しない理由としては「非正規比率の上昇」が最も多く、「賃金水準のグローバル化」「年齢構成の変化」がこれに続いた。

価格転嫁の状況

原材料価格上昇分を製品・サービス価格に転嫁できている割合は、製造業で平均約4割、非製造業で同2割強となった。

価格転嫁が難しい理由としては、「同業他社との競争が激しい」が82.4%と圧倒的に多く、「需要が弱く、値上げは合理的でない」「業務効率化により吸収可能」がこれに続いた。

・日本経済

1. 景気の現状について

現在の我が国の景気動向をどのように判断されますか。

図表1

全体(回答数207人)(社)経済同友会(155人)各地代表幹事(52人)

調査時点	全 体					(回答比%)	
	2007/3	2007/6	2007/9	2007/12	2008/3	(社)経済同友会	各地代表幹事
拡大している	1.4	1.8	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0
緩やかに拡大している	84.9	80.8	75.3	53.4	20.3	23.2	11.5
横ばい状態が続いている	12.7	15.6	22.9	36.1	50.7	49.0	55.8
緩やかに後退している	0.9	1.3	1.3	7.9	26.1	25.8	26.9
後退している	0.0	0.4	0.0	1.6	2.4	1.3	5.8
その他	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.6	0.0

図表2

製造業

(回答数75人)

(回答比%)

	2006/9	2006/12	2007/3	2007/6	2007/9	2007/12	2008/3
拡大	89.9	84.9	87.5	86.1	78.5	54.3	21.3
横ばい状態	10.1	15.1	12.5	13.9	19.0	37.1	46.7
後退	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	8.6	30.7

非製造業

(回答数132人)

(回答比%)

	2006/9	2006/12	2007/3	2007/6	2007/9	2007/12	2008/3
拡大	90.1	81.9	85.6	80.7	74.3	53.7	19.7
横ばい状態	8.6	18.1	12.9	16.6	25.0	35.5	53.0
後退	1.2	0.0	1.5	2.8	0.7	9.9	27.3

(社)経済同友会

(回答数155人)

(回答比%)

	2006/9	2006/12	2007/3	2007/6	2007/9	2007/12	2008/3
拡大	91.0	88.5	87.2	87.1	78.0	57.9	23.2
横ばい状態	8.5	11.5	11.5	12.9	20.8	33.1	49.0
後退	0.5	0.0	1.3	0.0	1.2	9.0	27.1

各地経済同友会代表幹事

(回答数52人)

(回答比%)

	2006/9	2006/12	2007/3	2007/6	2007/9	2007/12	2008/3
拡大	87.1	68.3	83.9	68.5	69.0	41.3	11.5
横ばい状態	11.3	31.7	16.1	24.1	29.3	45.7	55.8
後退	1.6	0.0	0.0	7.4	1.7	10.9	32.7

「拡大」は「拡大」、「緩やかに拡大」の合計。「後退」は「後退」、「緩やかに後退」の合計。

2. 2008年度前半(4月～9月)の景気見通しと主要な経済指標について

(1) 2008年度前半(4月～9月)の景気についてどのようにお考えですか。

図表3

全体(回答数207人)(社)経済同友会(155人)各地代表幹事(52人)

回 答	全 体				(回答比%)	
	現状判断	07/9月時*	07/12月時*	今後の見通し	(社)経済同友会	各地代表幹事
拡大する	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
緩やかに拡大する	20.3	59.0	32.5	15.5	15.5	15.4
横ばい状態が続く	50.7	36.7	41.9	49.8	48.4	53.8
緩やかに後退する	26.1	3.9	22.0	31.4	33.5	25.0
後退する	2.4	0.0	1.6	2.4	1.9	3.8
その他	0.5	0.4	1.6	1.0	0.6	1.9

注) P2の今回調査の景気判断の数値です。

*注) 07/9月時の回答は07年10月-08年3月、07/12月時の回答は08年1月-6月についての見通しです。

(2) そのように判断する根拠をお選び下さい(2つまで)。

図表4

全体(回答数206人)(社)経済同友会(154人)各地代表幹事(52人)

調査時点		全 体				(回答比%)	
		2007/6	2007/9	2007/12	2008/3	(社)経済同友会	各地代表幹事
設備投資	好調	30.6	38.4	20.7	10.7	9.1	15.4
	減速	9.5	5.2	10.1	11.7	14.3	3.8
企業収益	好調	52.3	37.6	23.9	12.1	13.0	9.6
	減速	3.2	10.5	24.5	36.9	39.0	30.8
個人消費	回復	45.0	20.1	8.0	2.9	3.2	1.9
	低迷	12.2	22.3	34.0	41.3	40.3	44.2
公共投資	増加	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	0.0
	減少	6.3	7.0	4.8	3.4	0.0	13.5
住宅投資	回復	1.4	0.0	2.7	5.8	7.1	1.9
	低迷	0.9	1.7	16.0	18.0	18.2	17.3
輸 出	好調	23.4	21.0	15.4	11.2	11.7	9.6
	減速	3.2	17.9	22.9	28.6	28.6	28.8
輸 入	好調	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	低迷			0.0	0.5	0.0	1.9
その他		0.9	4.4	8.0	4.9	4.5	5.8

(3) 対ドル円相場: 2008年6月末値

< 参考 > 2008年2月18日 1ドル = 108.01 - 03円

図表5

回答数207人 (回答比%)

	95円未満	95円以上 97.5円未満	97.5円以上 100円未満	100円以上 102.5円 未満	102.5円 以上 105円未満	105円以上 107.5円 未満	107.5円 以上 110円未満	110円以上 112.5円 未満	112.5円 以上 115円未満	115円以上 117.5円 未満	117.5円 以上 120円未満	120円以上
今回	0.0	0.0	0.5	2.4	14.0	37.7	31.9	9.2	2.4	1.0	1.0	0.0
前回	1.1			2.6	5.3	20.5	30.0	23.7	10.5	3.7	2.1	0.5

(4) 日経平均株価(東証・225種): 2008年6月末値

< 参考 > 2008年2月18日 終値13,635円

図表6

回答数207人 (回答比%)

	11,500円 未満	11,000円 台後半	12,000円 台前半	12,000円 台後半	13,000円 台前半	13,000円 台後半	14,000円 台前半	14,000円 台後半	15,000円 台前半	15,000円 台後半	16,000円 台前半	16,500円 以上
今回	0.0	0.5	1.9	2.9	14.5	19.3	29.0	17.9	9.7	3.4	1.0	0.0
前回	0.0					2.1	6.9	10.6	21.7	15.9	24.3	18.4

(5) 東証株価指数(TOPIX、東証一部・総合): 2008年6月末値

< 参考 > 2008年2月18日 終値1,333

図表7

回答数206人 (回答比%)

	1,100未満	1,100台 前半	1,100台 後半	1,200台 前半	1,200台 後半	1,300台 前半	1,300台 後半	1,400台 前半	1,400台 後半	1,500台 前半	1,500台 後半	1,600以上
今回	0.0	0.0	0.5	2.9	7.8	22.3	23.3	21.4	14.6	3.9	2.9	0.5
前回	0.0					3.2	5.9	13.3	14.9	22.3	18.1	22.4

企業業績、設備投資等

1. 貴社の業績についてお伺いします。下表から該当する番号をお選び下さい。

図表8(1)

全体		増収	横ばい	減収	(回答比%)
<見込み>	【売上高】				
	2008年1-3月期見込み	47.0	35.9	17.2	
	前回予想	54.2	31.1	14.7	
	【経常利益】	増益	横ばい	減益	
2008年1-3月期見込み	31.6	33.9	34.5		
前回予想	44.2	31.9	23.9		
<予想>	【売上高】	増収	横ばい	減収	
	2008年4-6月期予想	42.9	42.9	14.3	
	【経常利益】	増益	横ばい	減益	
	2008年4-6月期予想	32.7	45.2	22.0	

図表8(2)

製造業		増収	横ばい	減収	(回答比%)
<見込み>	【売上高】				
	2008年1-3月期見込み	56.0	26.7	17.3	
	前回予想	66.7	16.7	16.7	
	【経常利益】	増益	横ばい	減益	
2008年1-3月期見込み	33.3	33.3	33.3		
前回予想	53.1	23.4	23.4		
<予想>	【売上高】	増収	横ばい	減収	
	2008年4-6月期予想	45.8	34.7	19.4	
	【経常利益】	増益	横ばい	減益	
	2008年4-6月期予想	36.4	37.9	25.8	

図表8(3)

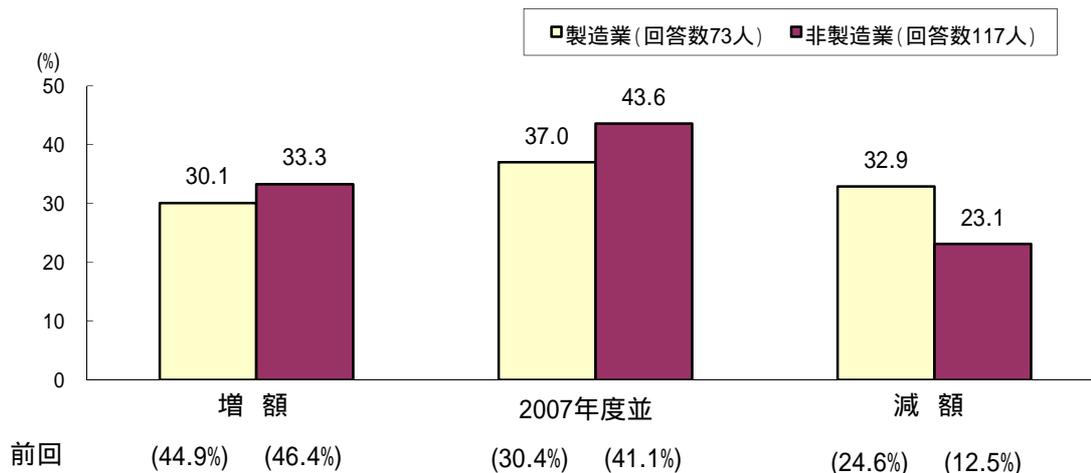
非製造業		増収	横ばい	減収	(回答比%)
<見込み>	【売上高】				
	2008年1-3月期見込み	41.5	41.5	17.1	
	前回予想	46.8	39.6	13.5	
	【経常利益】	増益	横ばい	減益	
2008年1-3月期見込み	30.6	34.3	35.2		
前回予想	38.4	37.4	24.2		
<予想>	【売上高】	増収	横ばい	減収	
	2008年4-6月期予想	41.0	47.9	11.1	
	【経常利益】	増益	横ばい	減益	
	2008年4-6月期予想	30.4	50.0	19.6	

(注)いずれも前年同期比

2. 貴社の設備投資(2008年度)について伺います。

(1) 国内の設備投資額(2008年度)は2007年度比でどのようになる予定でしょうか。

図表9



(2) 「(1)」で「増額」および「横ばい」をお選び頂いた方に伺います。

増額の主な項目をお選び下さい。(複数回答可)

または

「(1)」で「横ばい」および「減額」をお選び頂いた方に伺います。

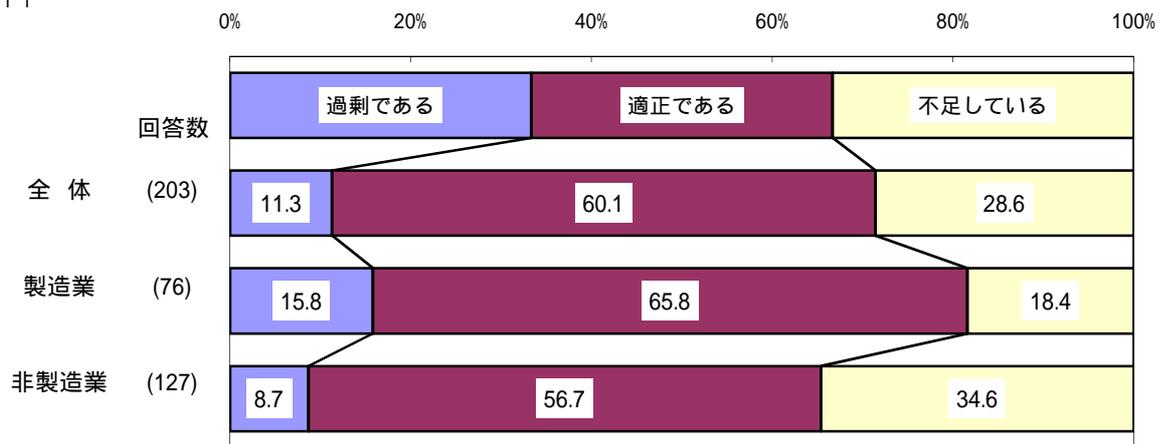
減額の主な項目をお選び下さい。(複数回答可)

図表10

	変更項目 (回答比%)					
	能力増強投資	新規事業投資	合理化・省力化投資	環境対策投資	維持・補修・更新等の投資	その他
増額						
製造業(回答数45人)	48.9	22.2	42.2	11.1	42.2	2.2
非製造業(回答数85人)	42.4	31.8	20.0	7.1	51.8	4.7
減額						
製造業(回答数37人)	43.2	24.3	27.0	5.4	32.4	8.1
非製造業(回答数51人)	15.7	37.3	13.7	3.9	43.1	5.9

3. 貴社の雇用の状況についてお伺いします。現状の雇用人員をどのようにお考えでしょうか。
 (1) 全体として、雇用人員は

図表11

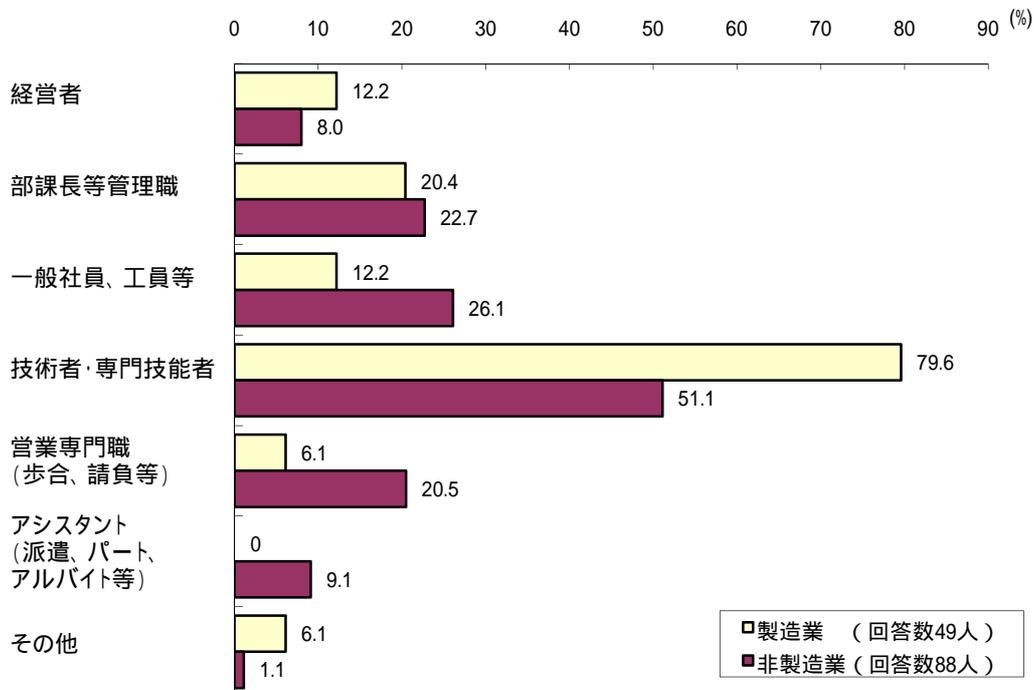


(回答比%)

調査時点		2007/3	2007/6	2007/9	2007/12	2008/3
全体	過剰である	9.4	9.0	9.4	11.9	11.3
	適正である	55.2	55.0	55.8	56.2	60.1
	不足している	35.5	36.0	34.8	31.9	28.6
製造業	過剰である	7.6	10.0	16.5	14.3	15.8
	適正である	69.6	66.3	68.4	67.1	65.8
	不足している	22.8	23.8	15.2	18.6	18.4
非製造業	過剰である	10.5	8.5	5.5	10.4	8.7
	適正である	46.0	48.6	49.0	49.6	56.7
	不足している	43.5	43.0	45.5	40.0	34.6

(2) 不足している雇用人員は(2つまで)

図表12



トピックス

1. 経済見通しについて伺います。

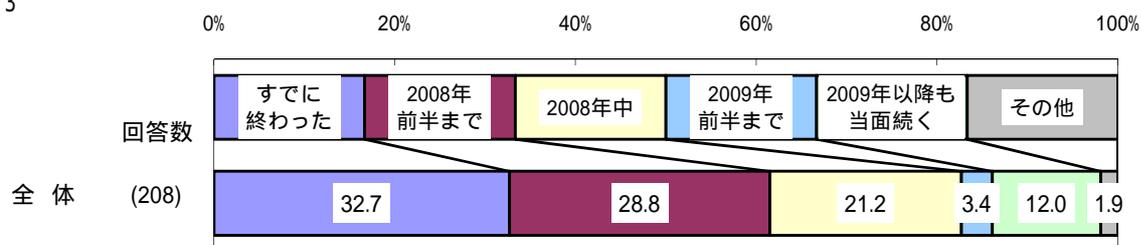
2月14日に公表された2007年10 - 12月期の実質GDP成長率は前期比0.9% (7 - 9月期は同0.3%)と、潜在成長率を上回る高い伸びとなりました。

(1) 一昨年11月に「いざなぎ超え」を果たした日本経済ですが、この景気拡大局面はいつまで続くと思われますか。

すでに終わった
2008年前半まで
2008年中

2009年前半まで
2009年後半以降も当面続く
その他

図表13



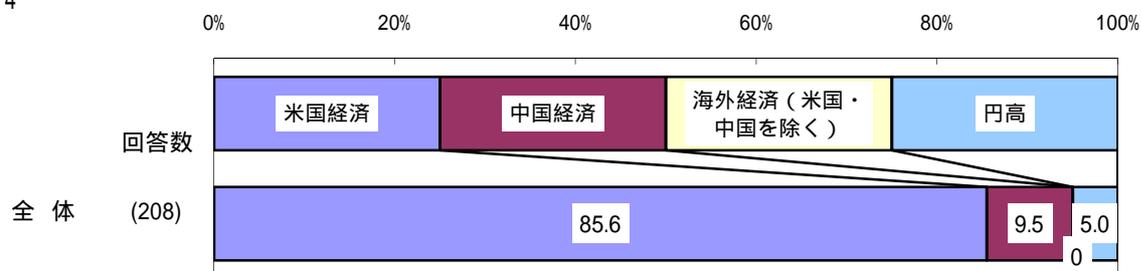
(2) 今次景気拡大局面終息の主なリスク要因として、輸出の減少のほか、何があるとお考えですか。

(2 - イ) 輸出を減少させる主な要因は何だとお考えですか。

米国経済
中国経済

海外経済 (米国、中国を除く)
円高

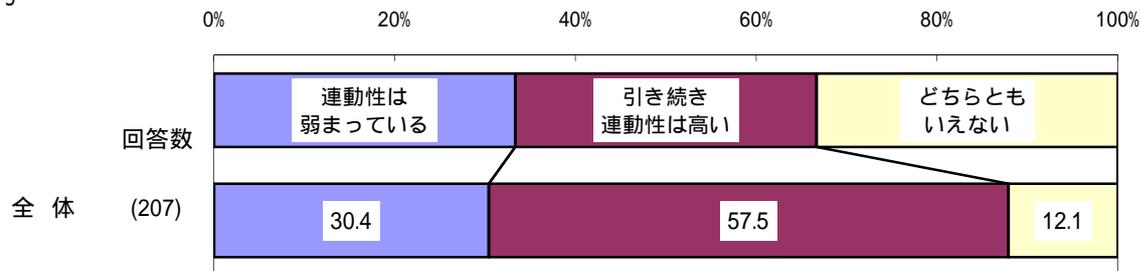
図表14



(2 - ロ) 米国経済の失速が深刻な場合には、アジアからの米国向け輸出が鈍化し、ひいては日本のアジア向け輸出も減少することが予想されます。一方、米国の景気後退が短期で終わる場合や、成長が低位ながらも持続する場合には、新興国向けを中心に、日本の輸出が増加を続けることも考えられます。
 今回の米国経済の落ち込みと世界経済の減速との連動性は、過去の景気悪化局面と比べてどうであるとお考えですか。

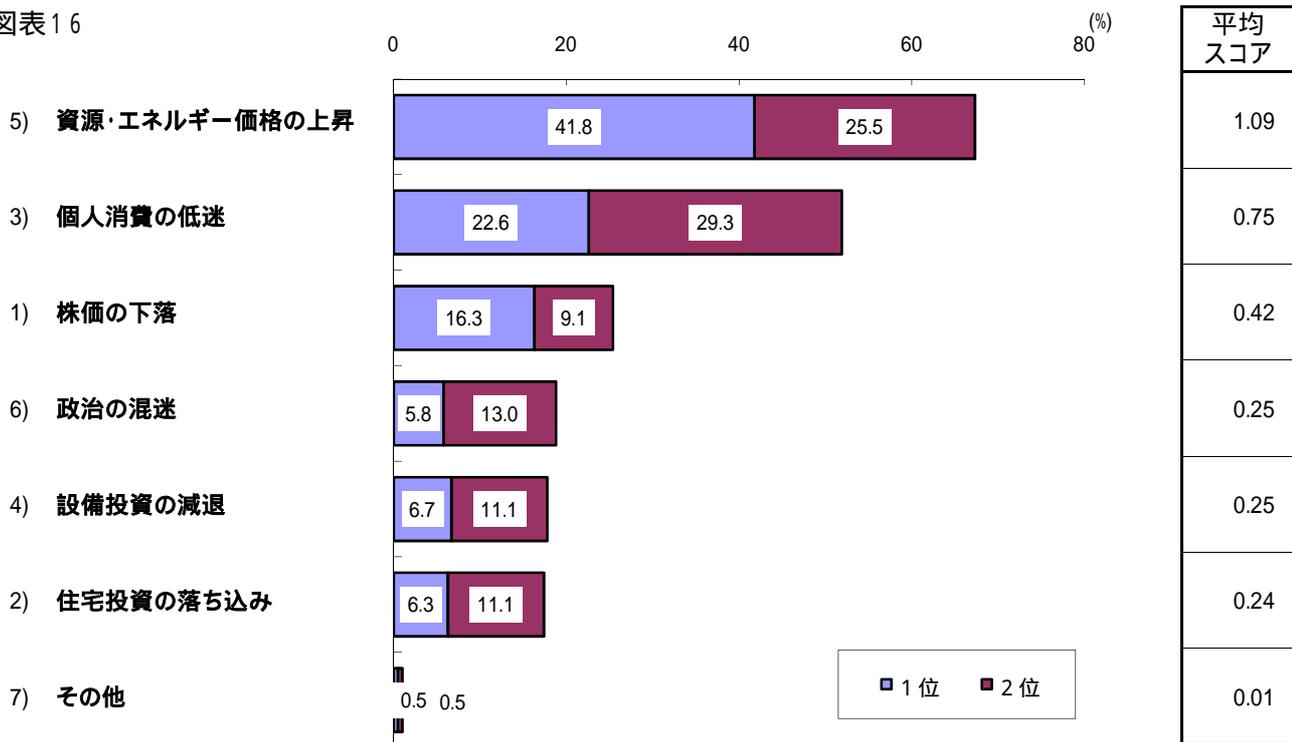
連動性は弱まっている
 引き続き連動性は高い
 どちらともいえない

図表15



(2 - ハ) 輸出以外のリスク要因は何だとお考えですか。優先順位の高い順に2つお答え下さい。

図表16



回答数: 全体=208人

注) 平均スコアは、1位: 2点、2位: 1点として算出

(3)2008年の米国の実質GDP成長率は何%程度になるとお考えですか。

なお、2月10日付のBlue Chip Economic Indicatorsにおける、民間調査機関等によるコンセンサスは、1.7%でした。

図表17 < 米国GDP成長率の見通し >

	2008年
回答数	201
平均値	1.54%
中央値	1.5%

(4)2007年度、08年度の日本の実質GDP成長率は、それぞれ何%程度になるとお考えですか。

なお、07年度入り後の各四半期の成長率(前期比)は、4 - 6月期マイナス0.4%、7 - 9月期0.3%、10 - 12月期0.9%でした。また、1 - 3月期の前期比が0.0%だった場合の07年度の成長率は1.7%となる見込みです。

図表18 < 国内GDP成長率の見通し >

	2007年度	2008年度
回答数	203	197
平均値	1.70%(1.75%)	1.51%(1.79%)
中央値	1.7%(1.8%)	1.5%(2.0%)

カッコ内は2007年12月調査時の値

(5)資源・エネルギー価格の高騰を受け、消費者物価が上昇しています。2007年度、08年度の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)上昇率は、何%程度になるとお考えですか。

なお、12月の前年同月比は0.8%上昇で、1月から3月もこの前年同月比が続いた場合の07年度上昇率は0.3%となる見込みです。

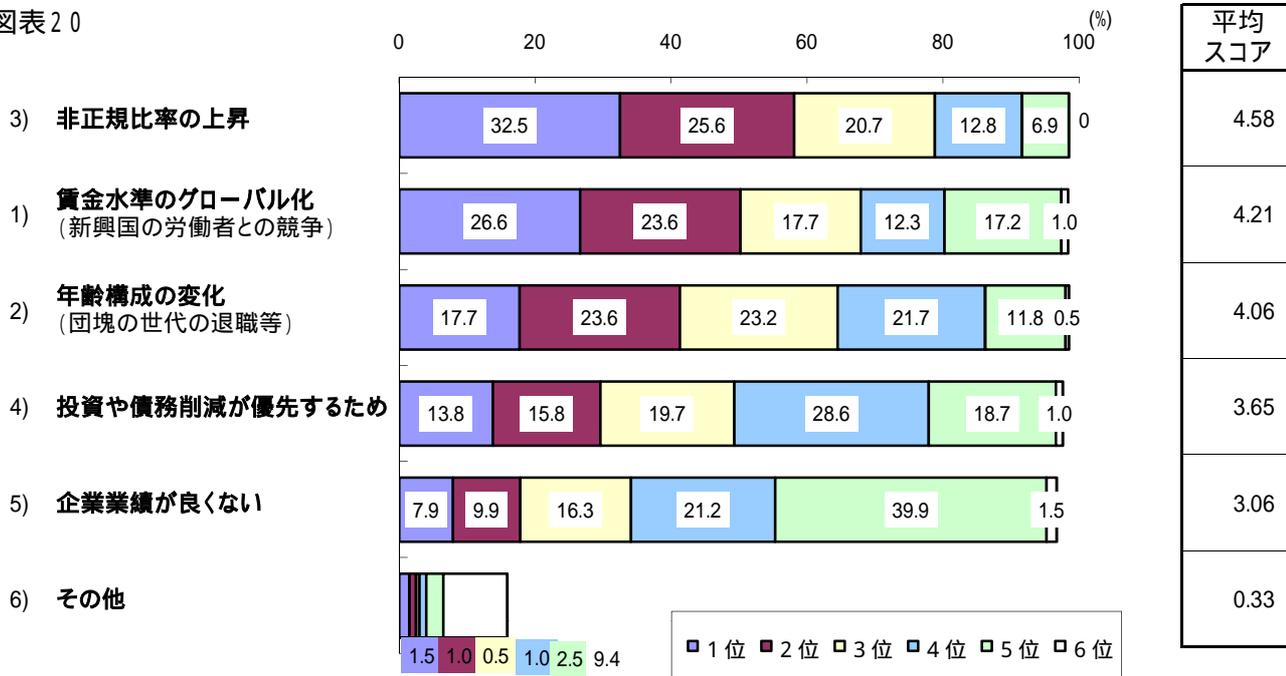
図表19 < 消費者物価指数の見通し >

	2007年度	2008年度
回答数	200	194
平均値	0.37%	0.58%
中央値	0.3%	0.5%

2. 2月18日に公表された毎月勤労統計調査によると、2007年の現金給与総額は、前年比0.7%減となりました。このことに関連して伺います。

(1) 賃金が上昇しない理由は何だとお考えですか。下の5つの理由を、影響度の高い順に並べて下さい(その他を含む場合は6つ)。

図表 2 0



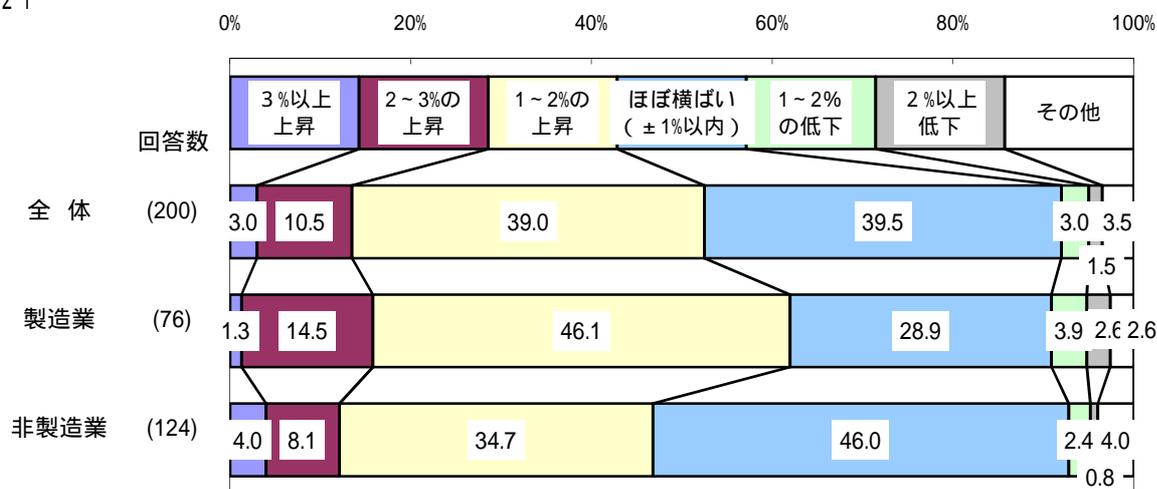
回答数: 全体=203人

注) 平均スコアは、1位: 6点、2位: 5点、3位: 4点、4位: 3点、5位: 2点、6位: 1点として算出

(2) 2008年度、貴社の平均賃金(定期昇給分を含む年収ベース)は07年度と比べどのように変化するとお考えですか。

- 3%以上上昇
- 2~3%の上昇
- 1~2%の上昇
- ほぼ横ばい(±1%以内)
- 1~2%の低下
- 2%以上低下
- その他

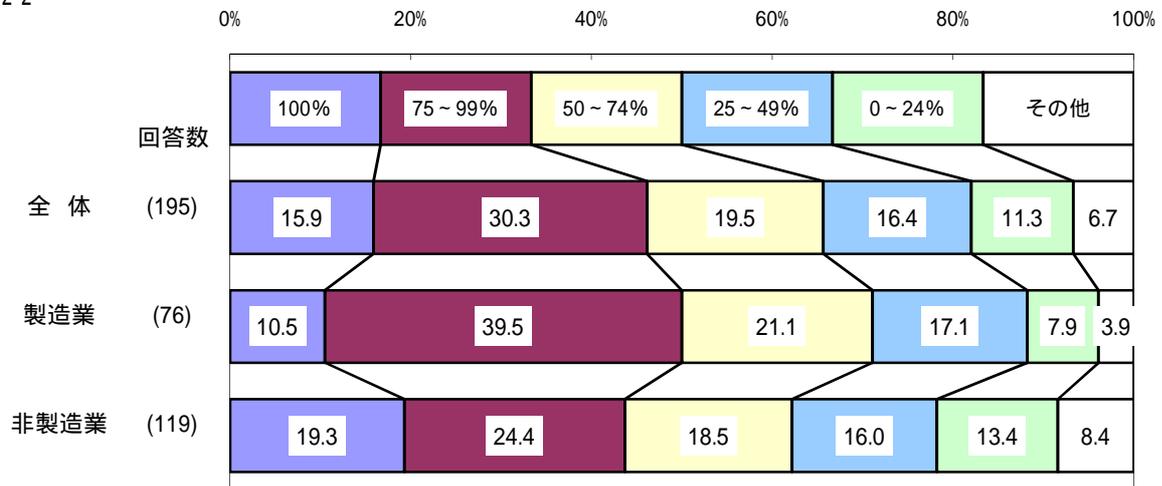
図表 2 1



(3)賃金を上げる場合、定期給与(所定内+所定外)、特別給与(賞与、一時金等)にどのような割合で配分しますか。全体に占める特別給与のウェイトでお答え下さい(例:全て賞与で上げる場合は を選択)。

100%
75～99%
50～74%
24～49%
0～24%
その他

図表22

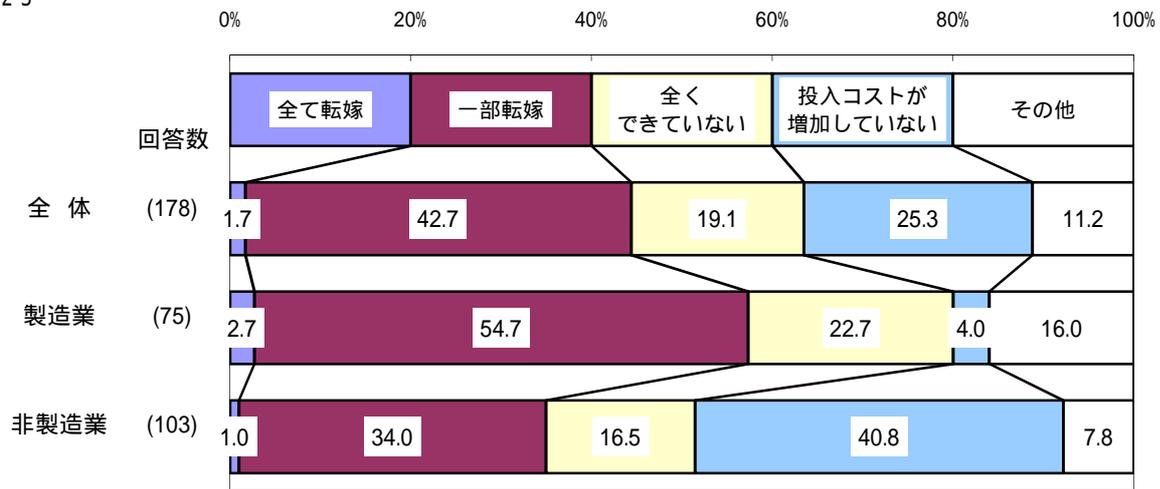


続いて、「原材料価格の上昇分を製品・サービス価格に転嫁しにくい状況が、賃金の上昇を抑制している」と言われていることに関連して伺います。

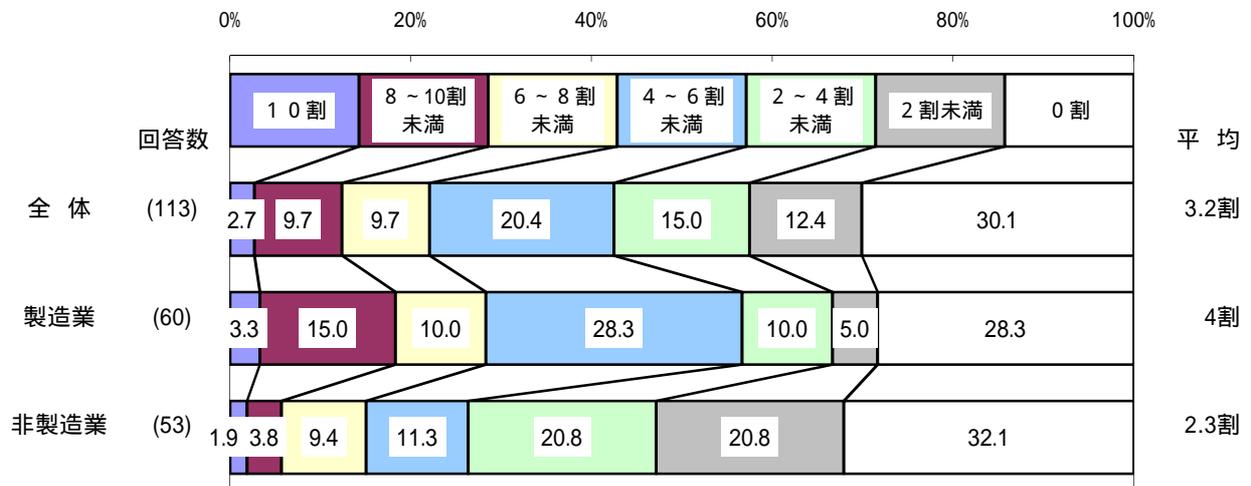
(4) 資源・エネルギー価格の上昇による投入コストの増加分は、何割程度製品・サービス価格に転嫁できていますか。

全て転嫁
 一部転嫁
 全くできていない
 そもそも投入コストが増加していない
 その他

図表 2 3

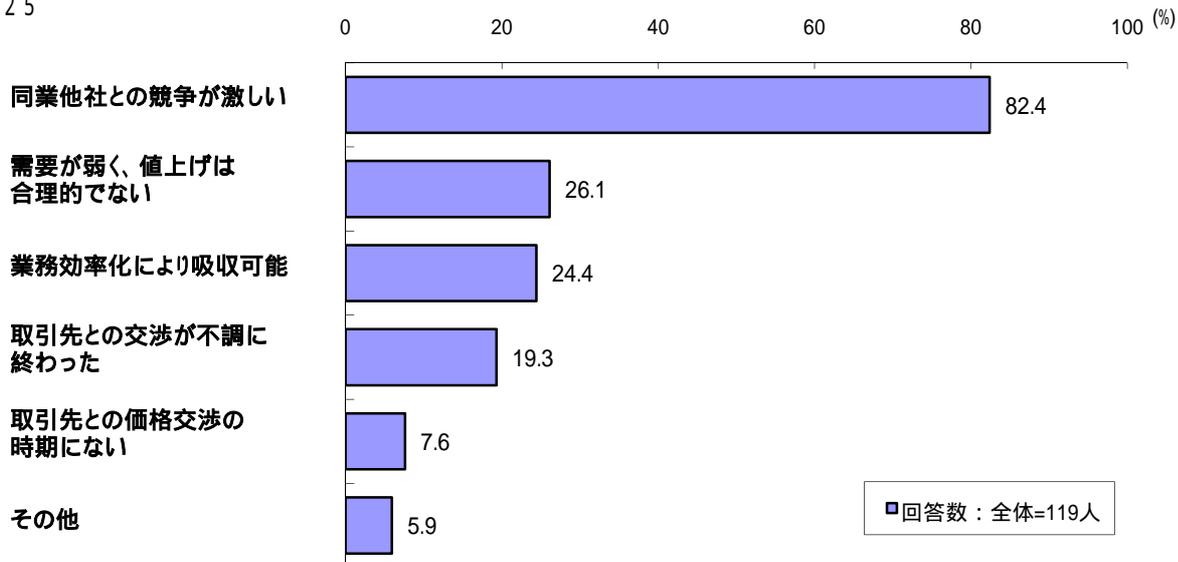


図表 2 4 < 価格転嫁の割合 (投入コストが増加した企業のみベース) >



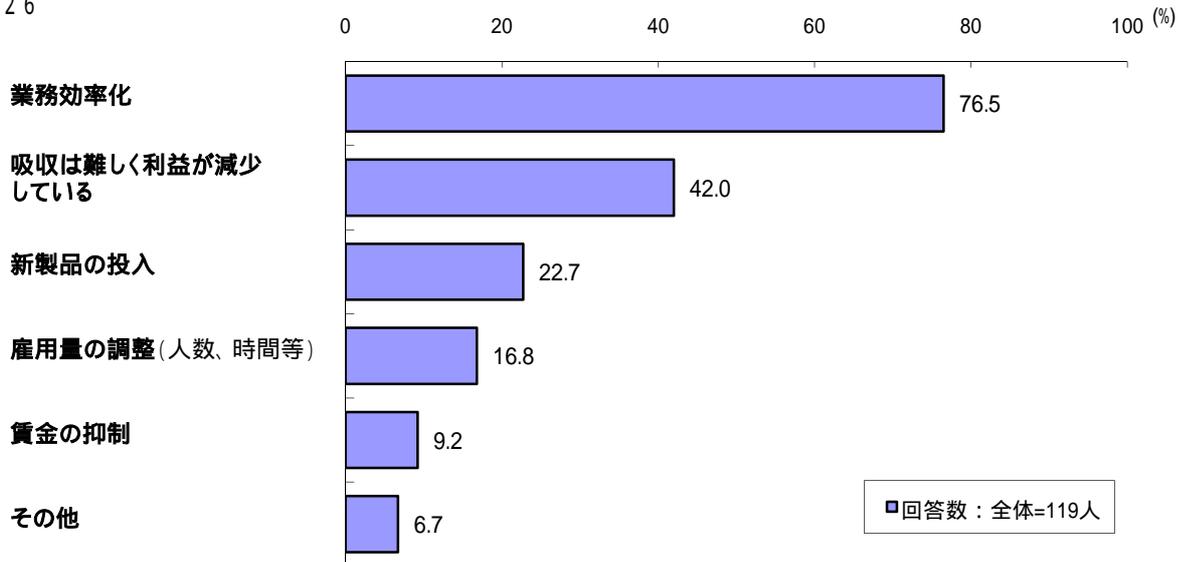
(5)一部または全て価格転嫁ができていないとお答えの方に伺います。
 価格転嫁が難しい(しない)のはなぜですか(複数回答可)。

図表 25



(6)価格転嫁ができなかった(しなかった)分のコスト増はどのようなかたちで吸収していますか(複数回答可)。

図表 26



- 回答者業種分類 -

製造業	76人
食品	11
繊維・紙	7
化学製品	18
鉄鋼・金属製品	4
機械・精密機器	13
電気機器	14
輸送用機器	1
その他製品・製造	8
非製造業	132人
建設	13
商業	16
銀行	18
その他金融	6
証券	5
保険	6
不動産	7
運輸・倉庫	15
情報・通信	15
電力・ガス	4
サービス(コンサルティング、研究所)	6
サービス(法律・会計・教育・医療など)	4
サービス(ホテル業、エンターテインメント)	4
サービス(広告)	1
サービス(その他)	9
その他	3
回答者総数	208人

- 回答者ブロック別分類 -

(社)経済同友会	155人
各地経済同友会代表幹事計	53人
北海道・東北	10
関東	5
中部・北陸	7
近畿	7
中国・四国	15
九州・沖縄	9
回答者総数	208人